

1 家庭における食育の推進

（国）

具体的な目標値	計画作成時の値 （令和2年度）	現状値 （令和5年度）	目標値 （令和7年度）	達成 状況
朝食又は夕食を家族と一緒に 食べる「共食」の回数	週 9.6 回	週 9.0 回	週 11 回以上	▼
朝食を欠食する子供の割合	4.6% （令和元年度）	6.1%	0%	▼

（徳島市）

本市の状況	第2期策定時 （平成27年度）	第3期策定時 （令和2年度）	第4期策定時 （令和7年度）	進捗 状況
家族との共食の機会がほとんど 毎日（週6日以上）ある人の割合 （朝ごはん）	41.0%	45.3%	44.9%	▼
家族との共食の機会がほとんど 毎日（週6日以上）ある人の割合 （夕ごはん）	54.3%	65.5%	62.9%	▼
朝ごはんの摂取状況	81.2%	83.3%	85.2%	△
朝ごはんの欠食率（6～11歳）	2.3%	4.9%	6.1%	▼
朝ごはんの欠食率（12～14歳）	10.5%	13.2%	0.0%	△

<達成・進捗状況> ◎：目標達成、△：改善、▼：悪化

※『家族との共食の機会』に関する質問については、第2・3期は「週6日以上」、第4期は「ほとんど毎日」の回答を集計。

※『朝食の欠食率』に関する質問については、国は「毎日食べている・どちらかといえば、食べている・あまり食べていない・全く食べていない・その他」の項目から「あまり食べていない・全く食べていない」の回答を集計。一方、市は「ほぼ毎日食べている・1週間に4～5日食べている・1週間に2～3日食べている・ほとんど食べていない」の項目から「ほぼ毎日食べている」以外の回答を集計。

※第4期策定時（令和7年度）の数値（割合）は無回答を含めての算出。

（コメント）

- ・共食の機会は、国・市ともに減少している。
- ・朝ごはんの摂取状況は市全体では改善傾向だが、6～11歳の欠食率は徐々に増加している。

2 学校、保育所等における食育の推進

（国）

具体的な目標値	計画作成時の値 （令和2年度）	現状値 （令和5年度）	目標値 （令和7年度）	達成 状況
栄養教諭による地場産物に係る食に関する指導の平均取組回数	月 9.1 回 （令和元年度）	月 10.5 回 （令和4年度）	月 12 回以上	△
学校給食における地場産物を使用する割合（全国平均）	52.7%	56.5% （令和4年度）	90%以上	△
学校給食における国産食材を使用する割合（全国平均）	87.0%	89.2% （令和4年度）	90%以上	△

（徳島市）

本市の状況	第2期策定時 （平成27年度）	第3期策定時 （令和2年度）	第4期策定時 （令和7年度）	進捗 状況
中学校における学校給食実施率	市立中学校で完全給食を実施			－

<達成・進捗状況> ◎：目標達成、△：改善、▼：悪化

3 地域における食育の推進

(国)

具体的な目標値	計画作成時の値 (令和2年度)	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和7年度)	達成 状況
地域等で共食したいと思う人が 共食する割合	70.7%	62.8%	75%以上	▼
朝食を欠食する若い世代の割合	21.5%	28.3%	15%以下	▼
主食・主菜・副菜を組み合わせた 食事を1日2回以上ほぼ毎日食べ ている国民の割合	36.4%	38.2%	50%以上	△
主食・主菜・副菜を組み合わせた 食事を1日2回以上ほぼ毎日食べ ている若い世代の割合	27.4%	28.3%	40%以上	△
ふだんから適正体重の維持や減塩 等に気をつけた食生活を実践する 国民の割合	64.3%	63.1%	75%以上	▼
ゆっくりよく噛んで食べる国民の 割合	47.3%	47.9%	55%以上	△

(徳島市)

本市の状況	第2期策定時 (平成27年度)	第3期策定時 (令和2年度)	第4期策定時 (令和7年度)	進捗 状況
若い世代(20～30歳代)の朝食 欠食率	39.8%	26.0%	29.7%	▼
主食・主菜・副菜を組み合わせた 食事を取っている割合(朝ごはん)	26.1%	19.1%	49.0%	-
主食・主菜・副菜を組み合わせた 食事を取っている割合(夕ごはん)	53.7%	50.6%		
メタボリックシンドロームの予防 や改善のために適切な食生活を行 っている人の割合	31.9%	31.6%	32.7%	△

<達成・進捗状況> ◎：目標達成、△：改善、▼：悪化

※『主食・主菜・副菜を組み合わせた食事』に関する質問については、国は「3つそろえて食べることが1日に2回以上あること」の設問に対し「ほぼ毎日(週に6日以上)」と回答したものを集計。市は「毎日」の回答を集計。

※『メタボリックシンドロームの予防や改善のために適切な食生活』に関する質問については、国は「いつも気をつけて実践している・気をつけて実践している・あまり気を付けて実践している・全く気をつけて実践していない」の項目のうち「いつも気をつけて実践している・気をつけて実践している」の回答を集計。市は「行っている・どちらともいえない・行っていない」の項目のうち「行っている」の回答を集計。

※第4期策定時(令和7年度)の数値(割合)は無回答を含めての算出。

(コメント)

- ・国・市ともに若い世代の朝食欠食率が増加傾向にある。
- ・適切な食生活を行っている人の割合は、国はやや悪化しており・市はわずかであるが改善傾向にある。

4 食育推進運動の展開

(国)

具体的な目標値	計画作成時の値 (令和2年度)	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和7年度)	達成 状況
食育に関心を持っている国民の割合	83.2%	78.1%	90%以上	▼
食育の推進に関わるボランティア団体等において活動している国民の数	36.2万人 (令和元年度)	33.1万人 (令和3年度)	37万人以上	▼

(徳島市)

本市の状況	第2期策定時 (平成27年度)	第3期策定時 (令和2年度)	第4期策定時 (令和7年度)	進捗 状況
食育に関心を持っている人の割合	60.6%	59.7%	66.8%	△

<達成・進捗状況> ◎：目標達成、△：改善、▼：悪化

※『食育に関心を持っている人の割合』は、アンケートで食育に「関心がある」又は「どちらかといえば関心がある」と回答した方の割合を記載。

※※第4期策定時(令和7年度)の数値(割合)は無回答を含めての算出。

(コメント)

- ・食育に関心を持っている市民の割合が前回（第3期策定時）より、7.1ポイント増加しており、性別では男性（61.7%）より女性（70.3%）の方が割合が高く、年齢別では20～30代（82.5%）の割合が高くなっている。

5 生産者と消費者との交流の促進、環境と調和のとれた農林漁業の活性化等 （国）

具体的な目標値	計画作成時の値 （令和2年度）	現状値 （令和5年度）	目標値 （令和7年度）	達成 状況
農林漁業体験を経験した国民 （世帯）の割合	65.7%	63.2%	70%以上	▼
産地や生産者を意識して農林水 産物・食品を選ぶ国民の割合	73.5%	67.4%	80%以上	▼
環境に配慮した農林水産物・食 品を選ぶ国民の割合	67.1%	60.2%	75%以上	▼
食品ロス削減のために何らかの 行動をしている国民の割合	76.5% （令和元年度）	76.7%	80%以上	△

（徳島市）

本市の状況	第2期策定時 （平成27年度）	第3期策定時 （令和2年度）	第4期策定時 （令和7年度）	進捗 状況
農業に関する体験（栽培体験）を したことのある人の割合	66.2%	43.6%	59.4%	△
農業に関する体験（飼育体験）を したことのある人の割合	21.8%	10.3%	15.8%	△
漁業に関する体験をしたことの ある人の割合	51.6%	27.9%	35.1%	△
食べ残しを減らす努力や心がけ をしている人の割合	80.6%	87.6%	85.3%	▼

<達成・進捗状況> ◎：目標達成、△：改善、▼：悪化

※『農業漁業体験』に関する設問に関しては、第1・2期と第3期策定時で、設問・回答内容に変更あり。

※国の『食品ロス削減のための行動』に関する設問については、食品ロスの認知度とその取り組みについての回答をクロス集計している。市の『食べ残しを減らす努力や心がけ』に関する設問については、『必ずしている・時々している・あまりしていない・全くしていない』の項目のうち「必ずしている・時々している」の回答を集計。

※第4期策定時（令和7年度）の数値（割合）は無回答を含めての算出。

（コメント）

- ・農林漁業に関する体験（栽培体験・飼育体験・漁業体験）をしたことのある市民の割合は、前回（第3期策定時）より、いずれも改善傾向となっている。
- ・食べ残しを減らす努力や心がけをしている市民の割合は、前回（第3期策定時）より、わずかにあるが悪化している。

6 食文化の継承のための活動への支援等

(国)

具体的な目標値	計画作成時の値 (令和2年度)	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和7年度)	達成 状況
地域や家庭で受け継がれてきた 伝統的な料理や作法等を継承 し、伝えている国民の割合	50.4%	44.7%	55%以上	▼
郷土料理や伝統料理を月1回 以上食べている国民の割合	44.6%	54.5%	50%以上	◎

(徳島市)

本市の状況	第2期策定時 (平成27年度)	第3期策定時 (令和2年度)	第4期策定時 (令和7年度)	進捗 状況
食事等のマナーに必ず気を付けて いる人の割合	36.8%	35.1%	35.6%	△
次世代に伝えたい郷土料理や伝 統料理があると答えた人の割合	31.7%	自宅で行事食を行っ ている人の割合 89.6%	自宅で行事食を行っ ている人の割合 96.7%	△
		徳島の郷土料理等を 知っている人の割合 78.4%	徳島の郷土料理等を 知っている人の割合 95.6%	△

<達成・進捗状況> ◎：目標達成、△：改善、▼：悪化

※『次世代に伝えたい郷土料理等』に関する設問の第3期・第4期の数値は、参考値として上記の項目を記載。

※第4期策定時(令和7年度)の数値(割合)は無回答を含めての算出。

(コメント)

- ・食事等のマナーに必ず気を付けている市民の割合は、概ね横ばい傾向となっている。

7 食品の安全性、栄養その他の食生活に関する調査、研究、情報の提供及び国際交流の推進

（国）

具体的な目標値	計画作成時の値 （令和2年度）	現状値 （令和5年度）	目標値 （令和7年度）	達成 状況
食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する国民の割合	75.2%	76.4%	80%以上	△

（徳島市）

本市の状況	第2期策定時 （平成27年度）	第3期策定時 （令和2年度）	第4期策定時 （令和7年度）	進捗 状況
食の安全性や健康被害などに関する情報に関心がある人の割合	29.5%	18.5%	45.5%	△
日ごろから食育を何らかの形で実践している人の割合	47.3%	48.6%	49.4%	△

<達成・進捗状況> ◎：目標達成、△：改善、▼：悪化

※『食の安全性や健康被害などに関する情報に関心がある人の割合』は、15歳以上向けアンケートの問34で「食に関して関心のある情報」と回答した人の割合を記載。

※『日ごろから食育を何らかの形で実践している人の割合』は、15歳以上向けアンケートの問8で「積極的にしている」又は「できるだけするようにしている」と回答した人の割合を記載。

※第4期策定時（令和7年度）の数値（割合）は無回答を含めての算出。

（コメント）

- ・食の安全性や健康被害などに関する情報に関心がある人の割合が前回（第3期策定時）より、大幅に増加している。
- ・また、食育を「実践している」と回答した市民の割合（49.4%）は、食育に「関心がある」と回答した市民の割合（77.5%）より28.1ポイント少なくなっている。